

バンドネオン 三浦一馬



一昨年秋のサロンコンサートで大変ご好評をいただいた二人の演奏が再び実現いたしました！
若き天才バンドネオン奏者
三浦一馬
ピアノの奇才
中川賢一
この二人の珠玉の演奏と
三浦屋の季節のお料理

手を伸ばせば演奏者に届くような定員30人ほどの贅沢な演奏会です。
定員になり次第締め切りとなります。

お早目のお申し込みを
お待ちしております。

ピアノ 中川賢一



登米市津山町柳津字本町81 三浦屋 0225-68-2003

昼の部	12:30～	お食事	夜の部	6:00～	お食事
	2:00～	コンサート		7:30～	コンサート
お一人様 ¥10.000 (税込 ワンドリンク付)					

三浦一馬 (みうらかずま)

1990年生まれ。10歳より小松亮太のもとでバンドネオンを始める。2006年に別府アルゲリッチ音楽祭にてバンドネオンの世界的権威ネストル・マルコーニと出会い、その後自作CDの売上で渡航費を捻出してアルゼンチンに渡り、現在に至るまで師事。2008年10月、イタリアのカステルフィダルドで開催された第33回国際ピアソラ・コンクールで日本人初、史上最年少で準優勝を果たす。2011年5月には別府アルゲリッチ音楽祭に出演し、マルタ・アルゲリッチやユーリー・バシュメットら世界的名手と共演し、大きな話題と絶賛を呼んだ。2015年3月出光音楽賞（2014年度）を受賞。バッハからガーシュウィンまでを編曲・演奏するなど、既成の概念にとらわれない意欲的な取り組みや、バンドネオンの可能性を追求する真摯かつ精力的な活動ぶりが2010年9月NHK「トップランナー」に取り上げられ、再放送となる反響を呼ぶ。コンサート活動の傍らテレビやラジオ出演も多数。2016年はデビュー10周年を迎え、3月にはデビュー公演を行った久喜総合文化会館公演を成功に導く。6月には恩師であるネストル・マルコーニとの競演で日本ツアーを予定。7月の大阪フィルハーモニー交響楽団第500回定期演奏会でバカロフの「ミサ・タンゴ」のソリストに抜擢されている。現在、若手実力派バンドネオン奏者として各方面から注目されている。使用楽器は、恩師であるネストル・マルコーニより譲り受けた銘器、Alfred Arnold。

中川賢一 (なかがわけんいち)

桐朋学園大学音楽学部でピアノを専攻し、同時に指揮も学ぶ。卒業後渡欧し、ベルギーのアントワープ王立音楽院ピアノ科最高課程、特別課程をそれぞれ優秀、首席の成績を収め修了。在学中にフォルテピアノ、チェンバロも習得。1997年オランダのガウデアムス国際現代音楽コンクール第3位。ベルギー、パリ、英国、オランダ、カナダ、ベネズエラ、メキシコ、韓国など世界各地の音楽祭に出演する他、ドイツ、フランス、スイス、スペイン、ポルトガル、ハンガリー、オランダ、米国、中国、ニューカレドニア、エストニアなど世界各地で演奏活動を行う。1998年帰国後はソロ、室内楽、指揮で活動。新作初演も多い。NHK-FM「ベストオブクラシック」「名曲リサイタル」「現代の音楽」「クラシック倶楽部」などに出演し、様々なオーケストラとも協演している。サントリーサマーフェスティバル、東京の夏音楽祭、武生国際音楽祭などの音楽祭に度々参加。東京フィルハーモニー交響楽団では“ドクトル中川”の名前で、ピアノ演奏とトークで様々な曲のアナリーゼを展開他、札幌交響楽団、水戸室内管弦楽団、NHKテレビ「名曲探偵アマデウス」、朝日カルチャーセンター、日仏文化協会バレエセミナーでも、様々な対象へアナリーゼを行っている。アニメーション監督宇井孝司氏と、音楽を聴きながら参加者にイメージを描いてもらった絵をアニメーション化するコラボレーションも展開し、現在、ムソルグスキーの組曲「展覧会の絵」やストラヴィンスキーの「春の祭典」等の作品を発表。現在、アンサンブル・ノマドのピアニスト・指揮者。